

令和元年度 福井型コミュニティースクール 実施報告書

福井市森田小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」構成(10名) (2) 協議会の内容

森田地区自治会連合会会長
森田公民館館長
森田社会福祉協議会会長
市青少年育成市民会議森田支部顧問
森田子ども会育成会連合会会長
主任児童委員 P T A特別委員
P T A顧問2名 P T A会長
＜地域コーディネーター 2名＞
森田公民館館長、森田公民館主事

＜開催回数＞ 3回
＜開催日程＞ 6/18 11/6 2/4
＜協議内容＞
6/18 今年度学校運営、年間計画について
11/6 第1回教育評価、全国学調報告
2/4 第2回学校評価 地域連携報告
わくわく交流デー視察、給食試食

(3) 協議会における成果と課題

第1回協議会では、地域での児童の様子について「下校後や休日、自転車に乗る際の様子が良い」「自転車用ヘルメットを着用している子どもが殆どいない」と委員さんから意見をいただいた。森田地区は区画整理のため道路整備が進み、交通量も一気に増えて、事故等を心配する声が地域からも上がっていた。そこで協議会后すぐに自転車用ヘルメット着用の実態を調査した(6/21実施)が、ヘルメットを持っていない児童の割合は高く、高学年では約75%が持っていないという実態が浮かび上がった(学校全体では58.9%)。この結果を受けて森田小PTAと協議を重ね、森田小・森田小PTAとして「自転車に乗る場合はヘルメットを着用する」ことをお便りで周知し、合わせてヘルメット購入斡旋を行った。また、委員である森田地区自治会連合会会長からは「自治会や子ども会単位でも交通安全について呼びかけ、地域の子どもを交通事故から守る取組を行っていききたい」とのご意見をいただいた。(実際に、多くの児童を抱える東森田地区では、子ども会が中心となり、交通ルールを守ることに絞った取組をしていただけた。)このように、子どもたちの身近にある課題を家庭・地域・学校が共有し、それぞれの立場でできることを考え、迅速に行動に移すという点で、本協議会の果たす役割は大きいと感じた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ①地域の自然・文化・歴史について学び、地域の課題を考えふるさとに愛着をもつ児童の育成を図る。
- ②活動を継続、発展させることで新たな伝統を築き、活動を通して、家庭や地域との連携をより確かなものにする。

(2) 活動の実際

- ①地域福井で活躍する人材(団体)を招き、その技を鑑賞したり体験したりして、将来に対する児童の意識を高める活動(全校児童)

・「地元福井で活躍する先輩の技に直接触れることで、ふるさとに愛着をもつ児童の育成」を目指して、今年度も地域コーディネーターやPTAと協議し、本校にとって2回目の取組である「芸術鑑賞教室」を開催した。今回は県内外で活躍している北陸高等学校吹奏楽部をお招きした。児童には事前にアンケートをとったが、「パプリカの演奏でみんなと一緒に踊りたい」というものが多く、実現の運びとなった。高校生のリードのもと、リズム



に合わせたり歌ったり踊ったりと、児童は演奏曲に合わせて様々な活動を体験することができた。児童からは「(90名の)迫力ある演奏に圧倒された。森田出身の先輩もいて、ソロの演奏を披露してくれた。本当にすごかった」「どれだけ練習すると、あの演奏ができるのかな。自分たちも音楽でクラス合奏をするので、参考にしたい」、地域の方からは「去年に続き、芸術の分野で子どもたちが一流の技に触れるいい機会となった。森田小出身の子が出ていたのも良かった」などの感想が寄せられた。

②地域に昔から伝わるものを「森田の誇り」として再発掘し、地域の方と共に作り上げていく活動(全校児童)

- ・「開発が進み、人口が増えている森田地区で、昔から住む人も新しく来た人も一緒にできることはないだろうか」という地域の課題から、校内体育大会で例年行われていた縦割り種目や大玉送りに代えて「森田音頭」を取り入れた。地域コーディネーターからその歴史を知る方や実際に今も踊っている方(森田地区婦人会)を紹介いただいた。そこで計画委員会が中心となり、婦人会の方に習って練習用のビデオを撮影した。それを縦割り活動の時に全校に広げた。本番では、たくさんの保護者や地域の方の前で、1年生から6年生まで動きを合わせて踊る姿が見られた。



婦人会の方に習う計画委員会



～先頭の6年生がハッピー姿に～

校内体育大会で「全校森田音頭」披露

(3) 地域コーディネーターの活動概要

2名とも継続しての委嘱であり、地域のことやこれまでの学校との連携についても熟知した上で、アドバイスや提案をしていただけた。今年度は新しく「森田音頭」を通して学校と地域を結ぶ活動を行った。「森田音頭」の経緯や今も活動している方の人脈について、学校としては手探りの中スタートしたが、地域コーディネーターから適切な助言をいただいてすぐに活動をスタートすることができ、児童の思いを形にすることができた。

また、学校ボランティアとして毎年児童と関わってくださる野菜作り名人の高齢化が進んでいる。継続してボランティアをしていただくようお願いや新しい方の紹介など、親身になって相談にのっていただいている。

(4) 特に工夫した事項

- ・地域の課題から、地域と学校が何かできないかと模索し、実行に移した活動は大変意義があったと思う。そして、地域と学校を結ぶコーディネーターの役割は大変大きいと感じた。昔から地域に住む方や新しく住む方に、子どもたちが手を取り合って森田音頭を踊る姿を見ていただいたことを、今後の活動につなげていきたい。

3 成果と課題

- 「素晴らしい先輩の技に触れたい」「森田地区を一つにする活動を、地域の方の前でやってみたい」「森田小を花いっぱい学校にしたい」という児童の思いを、地域とつながることができたと思う。今後も児童の思いを出発点とし、様々な活動に地域の方を巻き込んで実践していきたい。
- 地域コーディネーターとの連携や企画、立案、実施について、今年度は活動内容を最初から3つに絞り、見通しをもってより計画的に行った。
- △主に総合的な学習の時間や委員会活動の時間を使い活動してきたが、時間や場所の確保という観点から考えると、今後内容の精選を含め柔軟に考えていく必要がある。